鎧橋随想

（順不同）

20年振りのスキー

岡地
社長　岡地　和道

私は大学時代、スキークラブに入っており、毎年冬になると何度も合宿で山籠りしました。卒業してからは機会がなく、スキーから遠ざかっていましたが、子供が小学生になり、周囲もスキーに連れて行くようになり、私もせがまれて2年程前から重い腰を上げて20年振りに滑るはめになりました。

最初はおっかなびっくりでしたが、慣れてくると昔とった杵柄で、思ったより快調に滑れましたが、それ以上に予想外だったのは子供たちの上達ぶりです。特にまだ6歳の長男などは昨年は怖がって泣いてばかりいたのが、今年は北海道の富良野スキー場で、山頂までリフトで登り、滑れるまでになり、誰でも幼少期には無限の可能性を秘めていると実感させられました。

最近注目されている女子ゴルフの宮里藍なども本人の才能もさることながら、幼少期からの徹底した英才教育の賜物でしょうし、また音楽の分野では絶対音感を身に付けさせるなら、4歳頃から楽器を習わせないと不可能だと言われます。残念ながら私は英才教育を受ける機会もなく、何事も凡人のレベルを脱するには至っておりませんが、できるだけ子供たちにはどんな分野であれ、可能性を伸ばす機会を与えてやりたいと思う次第です。

桜に魅せられて

日商岩井フューチャーズ
社長　木嶋　正憲

毎年、桜の季節になるとわくわくする。記憶にある最初の感動は今も校門に咲く小学1年生の入学式の桜。あの頃はこんなに大きな桜の木があるんだ、と思っていたのに大人になって訪ねてみたら、そうでもなかったのには少しがっかりした。

育った盆地の北端を流れる京都疎水べりに数キロ続く桜並木も昔のままで感動的だが、噂に聞いていたワシントンポトマック河畔の桜には息を飲んだ。さすがに壮大で桜並木にも彼我の差を感じた。

なぜ、それ程桜に魅せられるものか。自分では成人になるまでの節目にはいつも背景に桜があったからだと思っている。入学式、卒業式、入社式など大きな転機となる春は、新しいことへの関心よりもどことなく不安を抱いていることが多かった。そういう時に桜の花はひそかに力になってくれていたように感じていたのである。

あの花の色とぼんやりした佇まいが押しつけがましくなく、勇気づけてくれると感じたのである。そんな少年のおびえや感激など知るよしもなく、あっという間に散ってしまうところも好きだった。今も好きである。

今年はどこに花見に行こうかと考えるのも楽しい。

休日より学ぶ

米常商事
常務　小林　哲也

休日には、1時間程度歩くようにした。最初の目的は、自分自身の健康のため、次には美味しい酒肴を求めて、さらには美味しい酒を飲むために。

最初は談笑しながら、妻と並んで歩いていたが、次には妻が1歩前に、さらには、3歩前に。何故かと思い考えてみると、店頭の前を早く通り抜けたがっているのだと。

最初は1時間程度歩くことが健康に良いということなので、ゆっくり歩いていた。

次には、やや早く歩くようになり、さらには最寄りの駅から電車に乗り、汗をかいた後の風呂上がりの美味しい酒を飲む楽しみへと変わっていた。

また、休日にはさまざまな考えを学ぶために、読書をよくするのだが、最初は必ず完読、次には半分程度、さらには斜め読みから本棚に積んでいるだけになる。

苦痛を伴わないものほど、目的を見失ったり、消え去ったりすることが当たり前のように言われる現代社会において、その恐ろしさを自分自身の生活から思い知らされた。

反省し、今では「次には」まで改善しているが、「最初の目的」には、まだまだ遠い今日この頃である。

素朴な疑問

今村証券
社長　今村　九治

商品先物業界に参入して早5年経つ。思っていたほど商売にはなっておらず、忸怩たる想いだが、すべてのCPシステムを自前で作ったうえに、営業スタイルもあくまで証券会社流を貫き、コツコツと基礎を固めてきたという自負はある。営業員全員が外務員ライセンスを取ったし、そこそこお客さんもできた。

我々証券業者から見ると、商品先物業界は随分遅れている、という印象だ。追加証拠金の取り方ひとつとっても不合理で、議論ばかりでちっとも改善されない。コンプライアンスにしても証券業界より40年ほど遅れているように感じる。

何よりも不思議なのは、商品一つ一つについて、それぞれ異なった期日や証拠金、取扱い単位があることで、これでは一般のお客さんは分かりにくくて仕方が無いだろうな、と思う。それぞれの歴史やいきさつがあるのだろうが、全商品の取引要件を一律にはできないものだろうか。

こんな風に使い勝手が悪いから、いつまでたってもお客さんが増えないのではないか、と、ついつい軌道に乗らない責任を業界体質のせいにしてしまうのだが、本当に業界を発展させたいのなら、是非、この辺りに思い切ったメスを入れて頂きたいものだ。

私のトリビア

コムテックス
副社長　小椋　洋

「へぇ～」という流行語を生んだ「トリビアの泉」という無駄な(?)知識を話題にするテレビ番組は、さすがに一時期のブームは過ぎた感はあるものの、いまだに根強い人気があるようです。

そこで、慣れない原稿の依頼を受けて困り果てたあげく、私も苦し紛れの「トリビア」をひとつ。「世界一短い手紙のやり取りはお互いに1文字ずつだった」。

「ああ無情」を出版したあと旅行に出た作者のユーゴー（今ならミュージカル「レ・ミゼラブル」の原作者といった方が分かりやすいかもしれませんが）が、本の売れ行きを心配して出版社に尋ねるために出した手紙の文面にただ一文字、「?」。

それに対する出版社の返事もただ一文字、「!」。

ベストセラーになっていたそうです。「へぇ～」と言ってもらえましたでしょうか?

昔は雑誌などの隅っこに載っていた「豆知識」を「トリビア」にお色直しして再評価するなんて、本当に頭は使いようですね。雑談や酒席での無駄知識のやり取りは楽しいものですから、今後も廃れることはないでしょうが、くれぐれも嫌味にだけはならないよう気をつけたいと思っています。

看護師

新日本商品
監査役　小松　利寿

一昨年、胸部疾患（膿胸）のため、初めて3週間の長期入院をした。入院当初は肺にチューブが挿入されて、自分の身のコントロールもおぼつかず、担当の看護師（この名称には抵抗を感じていた）には家人も及ばない、優しい笑顔で、昼夜を問わず、的確な看護を受けた。その明るい元気に触発され、病魔が思わぬ速さで退散し、予定より早く退院できた。

もちろん、担当医師の的確な措置があってこそではあるが、患者にとっては、看護師とヘルパーの存在はとても大きく、ともすれば病状を左右しかねない。担当医師の言葉を借りれば、病気を治す第一は患者自身であって、医師や看護師はそれを手助けする役割以上のものではないとのこと。

原因がわからないまま、痛い目にあったが、入院患者の中には、もっとつらく、病状の重い患者が多数いることと、その人々のお世話をする人達が大勢いることで、大変な仕事であることを改めて感じたものである。

自分の場合は、その看護に応えるべく努めた結果が、良とでたものであろう。一部を除けば、看護師の名称に納得させられたものである。

拝見　空手の騰気塾

「武士道」

1900年、今を去ること103年前に新渡戸稲造先生の著した『武士道』という本が国の内外で好評を博し、日本の武士道精神が見直されております。

世界のほとんどの国は宗教教育を通じて子孫に道徳教育を授けるが、日本の学校では宗教教育というものがない。

事の善悪の観念、道徳教育の吹き込みは武士道からであるというものです。温故知新、小生は現在学友の経営する「抱一龕」という恵比寿にある空手道場で、社員30余名と騰気塾なるものを結成し、武士道としての空手とは体得すべく気持ちのいい汗を流しております。

一、礼に始まり礼に終わるという基本の大切さ
二、「小よく大に勝つ」という妙味、体の大きさに関係なく対等に戦うことを考えて修練をする
三、「形の重要性」形から入り形から出ていく

その典型は茶道のお点前であり能楽の仕舞にみられます。

厳しい稽古を通じ「基本の大切さ」「形の重要性」「集中力、持続力、忍耐力の養成」を目的に本来の自己の能力を引き出すために、常に新しいものを発見しようという向上の精神を持続するために、騰気塾、塾生共々今日も汗を流します。

沸騰気塾の面々（前列右から2人目が苫米地さん）

練習風景

爽快な気分に

日本アクロス専務
苫米地　明雄

苫米地さんは高校、大学とボクシングをやったが、就職して10年ほどスポーツを離れた。30歳過ぎてから空手を始め、特に50歳過ぎてから熱心にやるようになり、有段者に。

2003年春から会社で〝同志〟を募るようになって、それが今では30人。ほとんどが営業の若い人。毎週土曜日、昼から2時間の練習で、板の間道場の雑巾掛けに始まり、雑巾掛けで終わる。

爽快な気分が生まれ、相手と対応する「心構え」ができる。「空手をやっている人が営業成績を上げると嬉しい」と苫米地さん。子息はプロ野球広島カープの投手で、「こちらも今季は期待できる」とにっこり。（本誌）

事務局だより

4月。たくさんの若い方々が、商取業界の一員として仲間入りをする季節です。

商品取引所法では、商品先物市場とは「国民経済の適切な運営」に役立つものとして位置づけられています。そして、市場の機能が十分に発揮されるよう、様々な資金を市場に仲介するのが「商品取引員」なのです。

新入社員の方々におかれましては、そのことをしっかりとご理解いただき、商品取引員の社員であることに「誇り」を持って、これからの仕事に取り組んでいかれますことを心より希望しております。